

## 地震調査委員会の「千島海溝沿いの地震活動の長期評価(第三版)」について

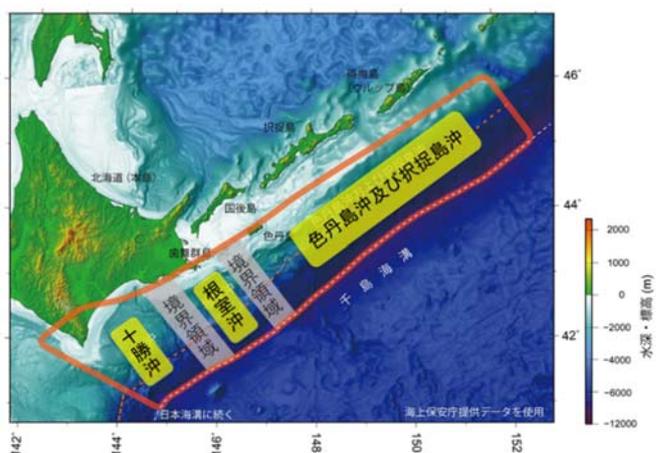
佐竹健治(東京大学地震研究所・地震調査委員会長期評価部会長)

地震調査委員会は2017年12月に「千島海溝沿いの地震活動の長期評価(第三版)」を発表した。2003年3月に第一版を公表後、2003年9月に発生した十勝沖地震(M8.0)を受けて、2004年12月に第二版を公表して以来、13年ぶりの改訂であった。この間、北海道東部において進展した津波堆積物に基づく古地震調査ならびに2011年東北地方太平洋沖地震(M9.0)が発生したことを考慮した。

超巨大地震(17世紀型)については、霧多布湿原、藻散布沼における津波堆積物調査に基づき、今後30年以内に発生する確率が7~40%と算定。規模は、東北地方太平洋沖地震のような海溝軸付近に大きなすべりを想定したモデルに基づき、M8.8程度以上と推定。前回の地震から400年程度経過しており、切迫している可能性は高いとした。

M8程度を超えるプレート間巨大地震については、過去の地震の震源域は同じでなく多様性があることから、十勝沖・根室沖の他に境界領域を設定した。また、色丹島沖・択捉島沖については統合してポアソン過程を仮定した。

この他、これまで考慮されていなかった、海溝軸付近の津波地震や、海溝軸外側の正断層地震についても評価した。



評価対象領域

今後30年間の地震発生確率(2018年1月時点)

評価対象地震	発生領域	規模	確率
超巨大地震 (17世紀型)	十勝沖から択捉島沖(根室沖を含む)	M8.8程度以上	7~40%
プレート間巨大地震	十勝沖	M8.0~8.6程度	8%
	根室沖	M7.8~8.5程度	80%程度
	色丹島沖及び択捉島沖	M7.7~8.5前後	60%程度
ひとまわり小さいプレート間地震	十勝沖・根室沖	M7.0~7.5程度	80%程度
	色丹島沖及び択捉島沖	M7.5程度	90%程度
海溝寄りのプレート間地震(津波地震等)	十勝沖から択捉島沖の海溝寄り	Mt8.0程度	50%程度
プレート内地震	やや浅い領域	M8.4前後	30%程度
	やや深い領域	M7.8程度	50%程度
海溝軸外側の地震	千島海溝の海溝軸外側	M8.2前後	不明